

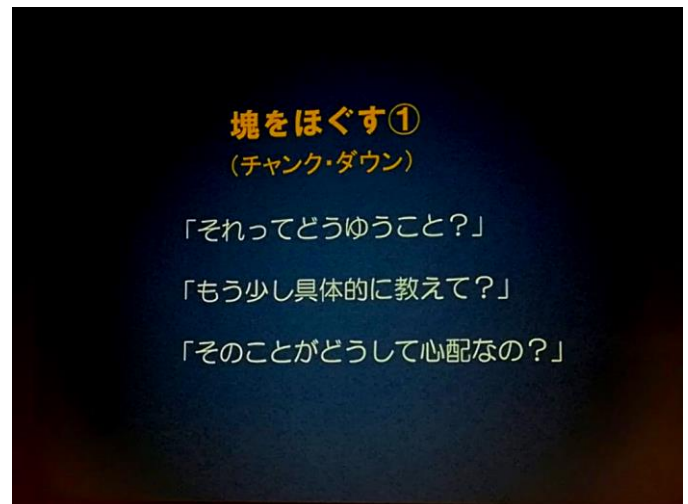
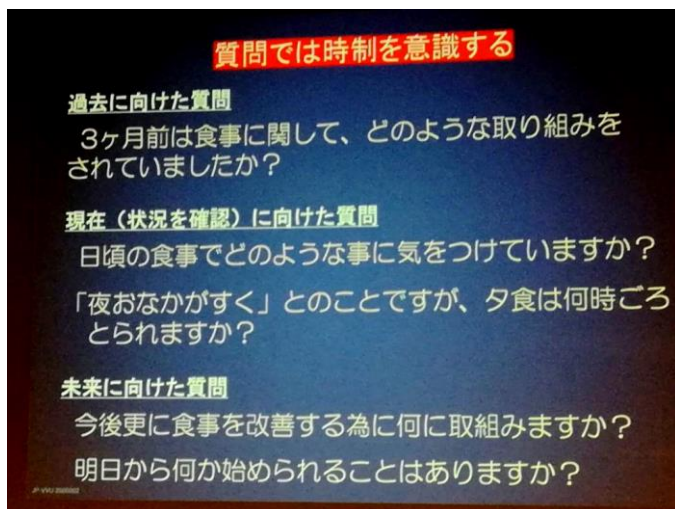
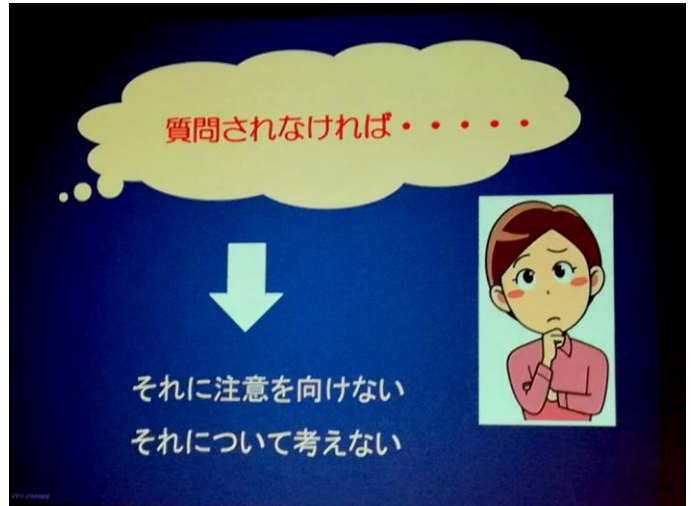
看護部生涯教育

日 時：令和4年 11月1日（火）16：40～17：40

場 所：新王子病院 4階 会議室 A

テーマ：糖尿病療養指導に活かすコーチング
～患者さんの主体性を引き出すコツ～

講 師：ライフスキャンジャパン 鈴木 孝 先生



『コーチ』と『トレーナー』の違いをご存じですか？『コーチ』は某ブランドのロゴで分かるように元々の語源は馬車で、馬車に乗ったみんなと相談して方向性を見つけることです。『トレーナー』の語源はトレイン・汽車なので、敷かれた線路の上を無理にでも引っ張っていくという意味があります。

厚生省のホームページでもコーチングについて紹介されており、『コーチング：相手の本来持っている能力・強み・個性を引き出し、目標実現や問題解消のために自発的行動を促すコミュニケーション技術』とされています。患者指導では、一方向の指示・命令だけではうまくいきません。知識や技術がない場合は、ティーチング(教える)が必要ですが、患者さんの姿勢や意欲を引き出すには、患者さんにたくさん話してもらい一緒に答えを見つけることが求められます。

やる気を引き出すには、まず話を聞くことです。本人に主導権のある質問（オープン型の質問）をしましょう。状況を確認し、塊をほぐし、再構築(まとめる)する際に、オウム返しの手法も使われます。聞き出した患者の状況・頑張りに対する事実承認には、Iメッセージ（私は〇〇と思います）を意識すると良いでしょう。

2人一組でのロールプレイをするなど、具体的で楽しい講義でした。

毎日の患者指導にコーチングを活かしていきましょう。